

『#大誘拐』（天藤真著）を読んでみた。本書は1978年に発表。著者は第32回日本推理作家協会賞を受賞。週刊文春ミステリーベスト10の20世紀国内部門第一位。前評判に違わず、面白い。1991年に『大誘拐 RAINBOW KIDS』のタイトルで映画化（岡本喜八監督）されているのでamazon prime videoで視聴もした。北林谷栄、緒形拳や樹木希林等、懐かしい俳優がたくさん参加している。映画は原作に忠実に作られていた。クリーンヒットで喜八プロに黒字をもたらしたという。

82歳のおばあさんの身代金が100億円。そんな大金を親族は用意できるのか。どうやって身代金を奪い、運ぶのか。一体そんな大金を何に使うのか。この難題をすべて解決し、読者を納得させる稀にみる傑作である（読後感もよい）。

服役三度のスリ師Tは、更生の資金を得るため、最後の大勝負として和歌山の「最後の山林王」である老婦人の柳川とし子の誘拐を決意する。Tはとし子が支援していた孤児園の出身で、篤志家で周囲からも敬愛される彼女が危険に晒されれば、家族も身代金を絶対に用意すると踏んだのだ。

Tは雑居房で知り合った空き巣のAと泥棒のMを仲間に入れた。日本随一の山林王柳川とし子を標的として身代金5千万を奪取、成功すればAとMには各1千万を分配することになった。3人は和歌山市内にアジトの確保・車・バイク・とし子の監視拠点の設定など、計画実行のための準備を整えていく。

3人組はとし子の行動を監視し、「お山歩き」を始めたとし子の行動パターンを把握し、誘拐に成功する。しかし、とし子から「アジトが和歌山市内は警察に察知される」と指摘され、とし子と交渉し山間部に新たなアジトを確保する。そこはかつてとし子の忠実な家政婦だったKの自宅であった。

Kの自宅に落ち着いたとし子と3人組は、誘拐団の名はとし子の提案により「虹の童子（映画はrainbow kids）」となった。そしてとし子が身代金の額を「5千万」から100億円との値上げを主張した。3人組は思考停止し、そのあたりからとし子が徐々に3人組を実質的に操りだす。

時を同じくして、柳川家からとし子の誘拐連絡が和歌山県警に入る。和歌山県警のI本部長は、青年時代さんざん落第を繰り返しながら柳川家の奨学金で大学を出た人物である。憤怒に燃えながらも冷静に、犯人グループに敢然と立ち向かう決意をする。かくして、とし子率いる「虹の童子」とIの、世界犯罪史上に稀に見る奇想天外な頭脳戦が始まった。

「虹の童子」はとし子が「出演」する生中継をTV局にさせるという大胆極まりない行為に出る。「虹の童子」は完璧なチームワークを発揮するようになった。常に覆面姿だったTがとし子に素顔を見せた。とし子は彼の孤児園時代のやんちゃなエピソードをすらすらと容易に思い出した。Tは驚愕し、うれし涙を浮かべる。一方、ごく短期間で100億円を用意するという一見無茶な要請をされた息子・娘たちも、資金調達に知恵を絞る中でそれまでの世間知らずのボンボン状態を一変させ団結・成長してゆく。

ヘリコプターを用いた輸送で、100億円は「虹の童子」の手に落ち、行方不明となった。その数日後、とし子はいかにも誘拐犯から解放されたかのような形で発見され、事件は収束したかに見えた。しかし緻密な推理と刑事としての長年の勘から、ただ一人、I本部長は限りなく真相に迫っていた。この事件の首魁は並大抵の人間ではない。言うなれば「獅子の風格と、狐の抜け目なさと、そして奇妙なことだがそれにパンダの親しさ」を兼ね備えたもの、すなわちとし子本人である、と。Iは意を決してとし子との最後の「対決」に出向く。とし子はIの前では本心を素直に吐露し、頭まで下げてみせた。ただし100億円の行方と実行犯3名の正体については口を割らなかった。

とし子の行動の動機は、戦争に国民を巻き込んだうえ3人の子供の命をも奪い、さらには相続税物納の形で美しい紀州の森林を略奪する政策をとった日本国政府に対する、憤怒と復讐だった。さらに戦後に残った4人の子供らの不甲斐無い有様に加え、体の変調、周囲の人々の微妙な態度とから自らの死期が近いことを悟った名家の盟主が、愛する森と山々を守るために国家権力に挑んだ、これは一世一代の凄絶な戦いなのであった。今回の誘拐事件はとし子にとって自分の死後確実に衰退するだろう柳川家を蘇らせ、そして、子供等に活をいれ、御山を守るチャンスだったのだ。3人との遭遇を天佑としたとし子にとって、この2週間の「事件」は老後の寂しい生活に花咲いたいつときの「メルヘン」のようなひと時だった。

実行犯のその後の軌跡は四者四様である。Mは、母や妹など家族らを救うために必要な一千万円だけを受け取り、今後は悪事から足を洗うと誓って故郷に帰った。Aは、アジトでKから紹介された隣村の娘と結婚することとなり、一円たりとも受け取らず堅気となった。そしてTはその後柳川家の出入り大工職人になった。とし子は体重が少し戻るなど健康をやや取り戻し、しばらくは命に別状はなさそうである。子供らやTたちの成長を見守ること、紀伊の美林を守り抜くこと、百億円の有効な使い道を考えること、一時は生きる気力を失いかけたとし子には、新しい生き甲斐ができたのである。

